

「令和3年度 東御市まち・ひと・しごと創生総合戦略KPI実績について」 に係るまちづくり審議会委員意見・回答

No.	委員	ご意見	回答
1	阿部委員	<p>基本目標1・数値目標「20～30歳代の社会増減数」 1、移住希望者の受け入れ態勢を整備の部分 ・現在、日本全国で多くのキャッチフレーズなどいろいろ事業をPRしている中で、市内では、光ったものが無い気がする。しかし、都会の喧騒の中で、子育てはしたくないという気持ちに触れるのは、誠実にこちらの子育て環境が非常に優れていることをPRすることだと思います。特に、母親が子育てを一人でするのでなく、地域を巻き込んで、みんなで行くところは、その実績をしっかりと伝えることです。それには、地域づくりの会などが、更なる子育て関連事業を充実させることが重要です。特にお試し体験での宿泊をできる限り長く行い、夫婦の場合は、出産したいという気にさせること。子どものいる時は、子どもの気を引く体験を多く取り組む。そこには、多くの地元の皆さんと行うこと。まだ、地元の皆さんが元気なうちに、伝統食などを伝えることも重要だと思います。どこでも取り組むことの中ですが、市では、人々の温かさを売り物にしたから！ お試しの空き家利用の宿泊施設を地区1個以上用意し、地域づくりを巻き込んで協働で行きましょう。</p>	<p>【子育て支援課】 東御市では公立保育園5園全て園庭に芝生を張っており、園児は裸足で芝生の上を自由に遊ぶことができ、とても良い保育環境です。また、保育料は3歳児以上は無料、第3子以降の保育料は無料など、保護者の経済的負担を軽減する施策も行っております。加えて、保育サポーターを養成しており、子育てに関わってもらう仕組みを構築していきます。これらのことを様々な媒体を通じてPRして参ります。</p> <p>【企画振興課】 お試しの空き家利用の宿泊施設として、和地区に移住体験施設を設置すべく、準備を進めています。まずは和地区をモデルとして確立し、他4地区にも同様の施設を据え、将来的には移住希望者と地元の皆様と交流の場として活用したいと考えます。</p>
2	阿部委員	<p>基本目標2・数値目標「社会増減数」【東御市人口ビジョン】 * 基本的に、今、東御市が行うことは、人づくりではないでしょうか！ * 人づくりにより、人口ビジョンの2040年までの市独自の推計人口28000人をキープできる。総合計画の5—46・47、6—56などを合わせたまちづくりの強化につながるのではと考えます。 1、県内の大部分の人口減少について ・「進学などで、転出した若者が、ほとんど帰ってきて、市内で家庭を築く東御市」をキャッチフレーズにしたらどうか。 ・それには、地域を挙げた、小さいうちの子育てが重要です。自分が育った環境に充足感があつたら、故郷を思う気持ちはしっかり持っていると思います。 ・地域づくりの会と地域おこし協力隊などが中心になり、いろいろな体験をさせて、そのことに、喜びや充実感が持てる子どもを育てる。 ・地元で育った子どもが、地元に戻らない地域では、きっと、故郷に対する愛着心も持っていないのではないかと？ ・戻るためには、働く場の確保も重要なことです。優良企業の誘致です。 ・故郷に戻ることは、たとえ同居をしなくても、いつも、親のことにかかわり方はできます。 ・戻るための子どもの教育の成果は、10年20年先になります。人数が少なくなってきた子どもたちだからこそ、人間性を育てる必要があります。それには、子ども同士、自然相手や大人相手の経験をコップから水が溢れほどさせることなどです。各地域で知恵を出し合い、素敵な大人に成長していく子どもを育てましょう！（スマホなど、実際に手に物を感じない今の環境では、心も育ちません。） ・県外からの移住、定住政策に並んで、いえそれ以上に、子育てを考えて欲しい。 ・地域づくり活動への参加人数は、コロナで事業が行えないので、少ないですが、多くの皆さんに参加を呼びかけ、しっかりした組織作りが必要。それが地域の継続や発展につながります。（役職に関わった皆さんが、それを終わると、関わらないのでなく。）</p>	<p>【子育て支援課】 現在東御市公立保育園は長野県の「信州型自然保育認定制度」に認定されており、自然の中で好きな遊びを見つけて、徹底的に遊ぶ機会を保育に取り入れることにより、子どもが本来持っている自ら学び、成長しようとする力をはぐむ取り組みをしています。そういう保育により育っていく園児は故郷に愛着を持ってもらえると考えています。</p> <p>【地域づくり支援室】 各地域づくりの会の活動を推進する中で、地域で育つ子供たちが様々な体験をすることで、地域に愛着を持ち、次世代につながる地域づくりを推進してまいります。 各地域の『地域ビジョン』の実現に向け、地域づくりの会と地域づくりサポーター（市職員）が連携し、事業の推進を図ります。地域ビジョンが実現することで、会員の皆様が達成感を感じ、疲弊することのない地域づくり活動を推進してまいります。</p> <p>【企画振興課】 人口減少に関する対策は大変重要であると捉えております。ご提案の子育てに関する取り組みを含め、本戦略に関わる庁内各部署が様々な政策を講じて横断的に取り組んでまいります。</p>
3	阿部委員	<p>・「ひと しごと」という中で、東御市は、どうしてこんなに、荒れた田畑があるのですか？もったいない！ ・企業を起こして、田畑を再生するのは大変ですが、ここにも、地域づくりが関わっていたら、優良農地に作り替え、おいしいお米の生産や、お野菜などを生産し、都会などへ、ネット販売していく。付加価値を付ける製品は、多くのところで、行っていますが、一番の基本のものを増産していく事も大切。 ・麦は作れないのですか？食量の自給率の低い日本で、こんなにも土地が荒れています。やり始めは大変だと思いますので、市の大きな支援をいただきながら、荒廃農地対策が、地域づくりの中で起業して、できないものではないでしょうか。今ならまだまだ、機械化などしながら農業を共にできる皆さんが地域づくりの中におられるのではないのでしょうか。</p>	<p>【農林課】 農業者の高齢化、後継者不足などが原因で、農地が遊休化、荒廃化していくことを防ぐため、各地域において話し合いを実施し、将来どの農地を誰が耕作するか、どのように担い手農家へ農地を集積・集約していくかなどの方針を決定する「実質化された人・農地プラン」を令和2年度に策定し、令和3年度には重点的に取り組む地区としての「モデル地区」の選定を行いました。令和4年度においては、モデル地区での具体的な話し合いを実施していきます。これら地域での話し合いの中で、農地一筆ごとに将来の担い手等を決定していくことにより、遊休化、荒廃化の防止を図ってまいります。また、話し合いの中で、経営体の法人化や集落営農組織の設立等の要望等があった際には、積極的に支援してまいります。</p>

No.	委員	ご意見	回答
4	重原委員	1. 基本施策等「東御市への移住・定住の促進」について 人口減少が進んでいる中、東御市への県内外からの移住・定住はとても大事。 「街の住みこころ&住みたい街ランキング2022」(大東建託㈱調査)によると、1位は2年連続で「御代田町」で人口が増え続けており、特に県外からの転入者が、県内の市町村の中で最も多いという。 ににみに2位は「松本市」、3位は「北安曇郡松川村」、4位は「上高井郡小布施町」、5位は「北安曇郡白馬村」。 調査は、「生活利便性」「交通利便性」「行政サービス」「静かさ治安」「親しみやすさ」「物価家賃」「自然観光」「防災」で評価しており、東御市もPRをしてまちの素晴らしさを伝えてほしい。 そうすると県外からの転入者増加につながると思う。	【企画振興課】 特徴的な施策やイベントなどの旬な情報発信の頻度を高めつつ、これまでPRしてきた「アクセスの良さ」「暮らしやすさ」「子育てのしやすさ」などの個性豊かな魅力と価値を各種メディア、特にWebを中心に強力に発信し、移住検討されている方に届けていきたいと考えています。
5	篠原委員	地域資源を活用した個人や企業との関係人口の創出・拡大 提案：御堂ヴィンヤード(ワイナリー)様「ワインの木、オーナー制度」 ワインブドウ農家(ワイナリー)と6次産業化+商工観光課の協業 オーナーは「ワインの木」の成育が気になり度々お見えになる(草取りなど手伝う) 私も「ヴィラデスト」創業時に「ワインの木、オーナー制度」実施して好評価満足 ・お客様満足度が高くファンクラブやリピーター客が増大した。 ・クラウドファンディングの要素もありワイン農家の資金繰りも大変助かる。	【6次産業化推進室】 オーナー制度や収穫ボランティアなど、市内ワイナリーでも数多い事例がございます。御堂での栽培者の皆さんにも、こうした事例を紹介して、発展的な農業・ワイナリー経営ができるよう支援してまいります。 【商工観光課】 地域が主体となって観光地域づくりをすすめ、体験型観光の推進を強化することで関係人口の創出・拡大を図ります。
6	篠原委員	◎「郷土愛を育てる」(移住定住U、Jターンに関しても有効) ○小中学生に地元の自然・歴史文化・特性(独自能力)の勉強や体験する機会を増やす ○郷土に戻り仕事、子育てをする(したい)を増やす ○市外不特定多数の方々に費用をかけてシティープロモーションするより効果的 ○教育委員会、商工観光課、6次産業化、地域づくり支援室、とうみ観光協会、各地域づくりの会(里づくり協議会)、とうみ歴史研究会、身体教育医学研究所総合型地域スポーツクラブ(sanyTOMI)、湯の丸コミッションなどとの協業強化	【企画振興課】 現在、市内横断的なプロジェクトチームを立ち上げ、効果的なプロモーションについて研究中です。「子育てのしやすさ」については、当市の特徴のある個性の一つとしてとらえていますので、子育て環境の良さにフォーカスしたPRに加え、子どものシビックプライドに通ずるシティブロモーションとして取り組みたいと考えています。
7	篠原委員	◎「地域ブランドメッセージ」の効率的活用 ロゴマークの活用案として ・市有車の後部部にステッカーを貼りメッセージ発信を強化する(広告宣伝・アピール) ・名刺用シールを配布して企業や個人の名刺に貼りメッセージ発信を強化する(協賛を増やす) ・ふるさと納税の返礼品にロゴマークを同梱し紹介をする(ファンを増やす) ・ロゴマークに対する市民の理解を深める活動を強化する(オラホのロゴ)	【企画振興課】 ロゴマーク活用例として、市役所の名刺をロゴマーク入りの物に変更したほか、今年度はマンホール蓋、ふるさと納税用ふた箱のデザインなどにロゴマークを取り入れました。工業振興会などにも企業向けにロゴマーク活用の周知を図って行きたいと考えていますが、他にもご提案がありましたらお寄せいただければ幸いです。
8	篠原委員	(第3次東御市総合計画策定に向けた)市民アンケート実施による回収率向上策 ・市民アンケート設計・市内ワーキング(5月～6月) ・市民アンケート実施要領作成(9月)アンケート実施(10月)予定から ○市報や紙に限定せず、Webアンケート回答(スマホやLINEの活用) ・Webアンケートは中高生及び若者や子育て世代に大変有効(貴重な意見が集約) ・中高生及び若者や子育て世代(10代～40代)の認識や意見が今後のまちづくりに重要 ○市内小中学校及び高校・専門学校に願って生徒・学生からアンケートを回収する ・例えば田中駅前Webアンケートチラシを早朝に配布する(QRコード付き) ○総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会(スポーツ係・上蘭さん)が実施したWebアンケート調査方法を参考にしよう ○市民アンケート実施はUターン(移住定住)施策に関して大変有効です ○市民アンケート実施は市民の行政品質満足度(OS)を知る上で大変重要だと思っております ○市民アンケート実施は成人式(タイミングが合えば)が有効です(インセンティブ付きで)	【企画振興課】 次期総合計画策定に向けた市民アンケートの設計に着手したところであります。アンケート実施に当たっては、コンサル業者を交えて、回収率向上のための方策としてWebによる回答方式の設定や現行計画の振り返りや満足度を知ることができる内容も考慮して進めてまいります。 小・中学生からの意見聴取につきましては、別途検討をしております。 なお、成人式アンケートを別途例年実施しておりますので、ご意見を参考として若者世代の意見聴取の場として継続してまいります。 市が行う各施策の行政品質満足度(OS)を図る調査の実施に向けて、Webアンケート調査について市内で共有を図ってまいります。
9	下村委員	東御市の認知度をあげるには、戦略の基本目標Ⅰ～Ⅳまでとても良いと思います。これを具現化していけばよいと思います。	【企画振興課】 引き続き、基本目標の実現に向けて取り組んでまいります。

No.	委員	ご意見	回答
10	下村委員	子どもたちの「とうみ検定」は、よいと思いますが、学校へ丸投げすることはできません。教員は、コロナ禍が加わり、毎日が本当に大変ですので、子どもたちにチラシを配布する位はできますが、中身までつくりあげることが無理です。中身については、企画振興課で作成し、地域づくりの会へでも相談されて実施に向け検討できるとよいでしょう。	【企画振興課】 検定を通じて、地域を知り、学ぶことは地域への愛着心を育み、シビックプライトの醸成に有効であると考えます。今後、検定実施に向けて研究をしてみたいと思います。
11	下村委員	湯の丸を中心とした、人の流れ、アスリート人ばかりでなく一般人が見学を含め、大勢が来るようにするとよいでしょう。アスリート食堂の一般向け用のものがあるとよいですね。	【文化・スポーツ振興課】 現在も一般開放を行っておりますが、アスリート向けの施設であるとの認識が高い状況ですので、情報発信を行ってまいります。また、トップアスリートの練習風景を見学する取り組みについては、withコロナ、アフターコロナの状況を見通す中で、計画していきたいと考えております。アスリート食堂については、4週間同じメニューを出さないことが特徴となっており、ビュッフェスタイルでの食事提供の為、個別メニューの提供は難しいとのことです。ただし、合宿の予約状況によりますが、ご予約をいただくことで、アスリートと同じメニューをお食べいただく事が可能とお聞きしています。
12	宮原委員	コロナ禍にある中で、よくこれだけの〇〇の成果があげられていると、関係各位の努力を痛感する。資料3の「実績」の表であらわすことは難しいかもしれないが、「前書き」として「コロナ禍の影響を多々受ける中で取組みが難しい施策がある」というコメントがあれば、そんな視点に立った読取り方が印象づけられると思う。	【企画振興課】 実績をまとめるうえで、コロナ禍の影響を明記することを徹底してまいります。また、本年度は本戦略5か年計画の中間年となることから、ウィズコロナを意識し、戦略の一部を見直す予定でございます。
13	宮原委員	「子育て支援センター利用者数」説明の中でコロナ禍にあつて利用者の制限をおこなっているとのことで、それは無理もないことと思う。が、自分も子育て、孫育てした中で、利用を制限された場合の行き場のない保育者のご苦労を思わずにはいられない。何回か子育て支援センターを利用したことがあるが、大声を出したり大泣きするような場面に遭遇したことはなく、おもちゃなども保護者同士が譲り合ったり和やかな雰囲気だった。保護者の付き添いがあり目が行き届くので、新たにお金をかけて場所を作らずとも、図書館内のスペースやその他会議室等の空き部屋などを活用して、おもちゃや本を持ち込み、少しでも親子を遊ばせてあげることによって虐待防止にもつながり、子育てのしやすい街というイメージアップにもつながると思う。利用者数の制限をできるだけおこなわないような方法を考えていただければと思う。	【子育て支援課】 上田圏域感染警戒レベルにより、子育て支援センターの対応基準を設け、利用時間や人数の制限をさせていただきました。ワクチン接種の対象でない子どもの安全や感染防止のため、人数制限等はやむを得ない状況であります。多くの人が利用できるように午前中は9時から10時30分まで、10時45分から正午までの2部制で対応したり、また電話での育児相談を随時行いました。今後も感染状況を見ながら使いやすい方法を検討していきたいと思っております。
14	宮原委員	・短時間での会議の説明では難しいとは思いますが、〇〇の特筆すべき成果についても一つ二つは席上で説明いただくことで聞いている委員にとっても「よかった、すごいな」と嬉しい気持ちになれると思う。 ・今回の会議委員さんには若い起業家がいったり、会社員の方など、前回の委員さんの顔ぶれとは少し違い、また、いろいろな考え方が生まれることと期待している。 あくまでも私的な考えだが次期総合計画策定に関し、コンサルを利用するような場合には、市内在住の移住者、起業家、IT関連事業者、地域作り支援員の方がたなどから構成するメンバーでのご当地コンサルプロジェクトを立ち上げ、報酬も支払い、地域を潤すような形でおこなわれればよいと思う。 東御市民としての感覚、希望を持つ人たちが、全国各地の先進例を調べ上げるなどして、これまでの計画をたたき台に案を作成されればよいと思う。	【企画振興課】 会議の進行、説明方法について参考とさせていただきます。 次期総合計画策定に当たっては、市民と担当部署職員とで策定市民会議及び専門委員会を設置するとともに、コンサル業者にも協力を得て、目まぐるしく変化する社会情勢を捉えて、夢と希望の持てる計画にしていきたいと考えております。